

## 公共施設マネジメント調査特別委員会会議録（要点筆記）

令和 5年8月8日（火）

午後 1時00分 開会

### ○鈴木幸彦委員長

ただいまから、公共施設マネジメント調査特別委員会を開会します。

協議第1、調査事項についての（1）「委員会の方向性について」を行います。

本テーマ「公共施設マネジメント調査」に至った経緯を説明させていただき、この委員会の方向性については現在試案していることをお伝えさせていただきます。

半田市においては、平成29年度に半田市公共施設等総合管理計画を策定し、令和4年度には改訂を行い、計画に沿った施設の管理をしていただいているかと思います。半田市内には、40年から50年経過した公共施設が沢山あり、これから建替え、廃止又は統合を検討する次期にきています。これからは古くなったから新しく建て替えるという時代ではなく、2つの施設を1つに統合することも十分に考慮していく必要があると感じています。半田市においては、それぞれの公共施設の更新計画を各課で考えていることは理解していますが、施設の統合、複合ということになると、取りまとめは何処がどの様に行っていくのかを指揮する部署が見当たらないのが現状です。

そこで、当委員会では、調査の1つ目として、市内の公共施設の多くが一気に老朽化となり、建替えにあたりどの建物を統合、複合化させるのか、またどのような手法が半田市にとって有効かを探っていきたいと思います。2つ目としては、堅実さも大切ですが、今の常識に囚われずに夢があって自慢できる施設があることは、半田の魅力に繋がると考えますので、必要な機能があって地域の拠点となり、住民の夢が詰まった建物も考えるべきだと思いを調査したいと思いを。この様な方向性を持って、成功事例からより良い公共施設の管理運営や手法を学び、計画の方針に委員会からの提言を加えていただく形でこの委員会を進めていきたいと思いを。それでは、ここで、皆さまからもご意見を頂戴したいと思いを。

### ○山田清一委員

委員長の意見に賛同します。この委員会で色々な意見がきくと出てくると思いをしますので、より踏み込んだ議論ができると良いと思いを。

### ○芳金秀展委員

委員長から言って頂いた背景や課題意識には共通するものがあります。令和4年5月に改訂した半田市公共施設等総合管理計画はしっかりと作り込まれており、個別の計画もあるとのことですが、複合化が謳われていますので各部署と連携しながら進めていただきたいと思いを。

これからの公共施設は、今あるものをそのまま維持管理して堅い計画よりも、エンターテインメント性、集客、もしくは稼ぐという視点が入ることによって市民サービスをより向上させていけるような施設に併合できる可能性があると思いを。この委員会で調査する内容は半田市の可能性を伸ばしていく部分においては

有意義なものになると考えています。

○小出義一委員

従来あった施設を継承していただくの時代ではなくなってきました。12 万人都市として平均的ではなく、施設の魅力を引き出すようなことを調査研究できる絶好の機会だと思っています。

○加藤美幸委員

知多半島の中で似たような施設を近隣の市町と協力し、広域で統合することも検討することもあってよいと考えます。

○有留麻由委員

公共施設のマネジメントにおいて、施設の民営化や指定管理化することによって生じるリスクもあると思います。大きなダメージを受けるのは市民ですので、委員会の中でも様々なリスクを念頭に置きながら公共施設の必要性や今後どの様に置き換えていくべきかなどを勉強していきたいと思います。

○竹内功治委員

堅実さは大切なところですが、半田市に住みたい、暮らしていてよかったと言ってもらえる施設を管理運営できるよう考えていきたいと思います。

○山本裕介副委員長

50 年先を見据え、また幅広い視点の中で公共施設マネジメントについて調査研究していきたいと思いません。

○國弘秀之委員

「統合」というキーワードの中には人口減が一つの要因として含まれており、全国的に人口が減って行く中で、半田市も緩やかに人口減が進んでいます。2つの施設を1つにすることを考えた時に、人口を増やすための視点も大切ですが、当然減っていくと言う流れの中での視点も必要です。相反する2つの視点をどう見るべきなのかも考えながら関わっていききたいと思います。

○新美保博委員

公共施設のマネジメントにおいて、課題がいくつかあげられており、幅広く調査することは大切ですが、限られた時間の中での調査なので、例えばハードとソフトな面の課題に絞り、今の半田市が抱える課題をクリアしてはどうかと思います。答えはシンプル且つ端的に導けたらと思います。

○鈴木幸彦委員長

ありがとうございました。

私の中では、この委員会で今ある公共施設等総合管理計画の中身を見直すことは考えていません。先進自治体での行政視察から統合や複合化のメリットやリスク、PPP（公民連携）や PFI（民間資金等活用事業）の手法やその他取り組んでよかった事例などを学び、新たな視点を管理計画の中に組み込んでいきたいと思えます。

皆さまから意見を伺う中で、私から提案させていただいた目的や方向性などをご理解いただけたと確信いたしました。これから 1 年間よろしくお願いします。

このことについて、他にご意見等がありますか。

【「なし」との声あり。】

○鈴木幸彦委員長

ないようでしたら、この件については終わります。

次に、（２）半田市の現状についてを行います。

本日は、資料 2 の半田市の現状についてを山田企画部長より説明いただきます。

○山田幸企画部長

半田市公共施設等総合管理計画に基づき説明させていただきます。

まず初めに、策定の背景と理由についてです。本市を含め、全国の多くの自治体では、高度経済成長や全国の総合開発計画などを背景にし、昭和 30 年代から 50 年代にかけて生活水準の向上や人口増の対応など住民福祉を目的として短期間に公共施設、道路、インフラ等の整備を進めてきました。その結果、過去に建設された多くの公共施設等がこれから一斉に更新時期を迎えつつあり、多額の更新費用が集中的に必要なことや、全国的な人口減少・少子化等により、今後の公共施設等の利用需要が変化していくことが見込まれます。

このことから、公共施設等の現状や課題を正しく把握して長期的な視点を持って管理を推進すると、平成 26 年 4 月に総務大臣通知として、「公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進」においての文書通知において全ての地方公共団体に対して、公共施設等総合管理計画の策定が要請されました。

そのうえで、本市が保有する公共施設等の更新費用など全体を把握したうえで、財政運営の持続可能性を明らかにするとともに、公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針を定めるため、「半田市公共施設等総合管理計画」を平成 29 年 3 月に策定し、令和 4 年 5 月に改訂しました。

次に、現状の取組と課題についてです。この計画は、公共施設の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針を定めているもので、具体的な更新については、総合計画に基づく実施計画（3 か年実施計画）を本計画の実施プログラムと位置付け、具現化を検討していくこととしています。令和 4 年度からは建築課に公共施設管理担当を新設し、情報の取集や優先順位付けなどを柔軟性、専門性を持って対応をしているところです。

また、課題については、1 点目として「量の課題」です。人口減少の進行等に伴い、将来的には公共施

設のニーズが減少するなど社会情勢が変化していくことが考えられるため、「量の見直し」など適切に対応する必要があります。2 点目として「品質の課題」です。公共施設等の品質を適正に保ち、長期的に健全な状態を維持するために、予防と保全の観点から事前に対応していく維持管理の視点が必要です。3 点目として「財務の課題」です。本市が保有する公共施設等を今後も維持した場合であっても、持続的な財政運営は可能であると見込まれます。しかし、人口減少の進行等に伴って税収が減っていく可能性もあり、新たな財源の確保やコスト縮減に向けた取組が必要となります。

最後に、今後の方針についてです。本計画においては、3つの大きな柱があります。1 点目は、「建築物の新たなニーズに対しては、既存施設の有効活用、統合・廃止等を県央し、原則、施設総量は平成 27 年度松時点の総量を超えない範囲とする。」、2 点目は、「公共施設等の老朽化を起因とする重大な事故を起こさないよう適切な保全を実施する。」、3 点目は、「新たな財源確保やコスト縮減に取り組み、地方債の発行を最小限に抑え、将来世代の負担を可能な限り軽減する。」です。この 3 点を踏まえたうえで、具体的な 10 の実施方針を掲げています。方針の 2 点目の「維持管理・修繕の更新等の実施方針」では、更新に際して民間の技術・ノウハウ、資金等を活用する PPP/PFI の導入を検討します。方針の 3 点目の「長寿命化の実施方針」では、建築物として一般的な鉄筋コンクリート造の耐用年数は、50 年程度とされていますが、建築物の目標耐用年数 80 年を実現するため、ライフサイクルコストの低減に寄与する効率的な管理を行い、長寿命化を検討します。方針の 7 点目の「統合・廃止の実施方針」では、施設の統合・廃止を検討するなかで、適正な配置と効率的な管理運営を目指し、施設の設置に係る小学校区、中学校区など基本単位の整理を行っていきます。

以上で公共施設等総合管理計画の説明とさせていただきます。

○鈴木幸彦委員長

ありがとうございました。

委員の皆さまから何かお聞きしたいことがありましたらお願いします。

○加藤美幸委員

この計画のチェック体制として審議会等が毎年ありますか。

○山田宰企画部長

管理が適正に行われているかについては、各課で周知を行い、チェックシートを以ってチェックをしているところです。この計画の最も重要な点は、施設で事故が起きないことですので、施設を所管する各課でチェックを行っているところです。チェック機関があってチェックを行う仕組みにはなっていません。

○芳金秀展委員

半田市が所有する施設は沢山ありますが、施設を所管する各課において、個別の施設計画があるという認識でよかったですでしょうか。

○山田幸企画部長

その通りです。期限を切って作成していますので、各施設で計画を持っています。ただ、その施設を維持するための計画ですので、今後、施設と施設を統合する計画にはなっていません。

○芳金秀展委員

各施設では、どのように維持していくかを主眼にしているかと思います。この委員会では、複合化することでメリットが出る可能性もあるという視点についてなんらかの回答が出せると、今までやったことがなかった視点で公共施設のあり方を見ることができると思います。この様な視点で進めることについて齟齬はないという認識でよろしかったでしょうか。

○山田幸企画部長

その通りです。複合化を全く考えていないかと言うと、そう言う訳ではありません。

○新美保博委員

公共施設を所管するそれぞれの課が作成している個別の計画は、どこかが主体となって内容を明らかにしておくべきと考えますが、個々の計画を統括する部署はどこですか。

○山田幸企画部長

この計画を誰が責任をもって推進していくかは、計画の担当課である企画課になります。部署が異動になった場合についても3か年実施計画の実施プログラムになっていますので、担当課の状況や意見を聞きながら進めますが、最後の調整は企画課で行うことを考えています。

○新美保博委員

計画を実現させるために、企画課のどの担当がいつ、どの様にやるか等決まっていますか。

○山田幸企画部長

企画課で行いますが、担当は決まっています。

○新美保博委員

主となる担当がいて、計画通りにできなければこの計画を策定した意味がないため、今後の視察などでは、担当部署にも視点を置いて調査していきたいと思います。

○鈴木幸彦委員長

今後、施設統合を進めていく中での着地点の1つとして、各課をまたぐ部署が見当たらない所は、今回の委員会の答えの1つかと感じました。

この件について、他に何かありましたらお願いします。

【「なし」との声あり。】

○鈴木幸彦委員長

ないようでしたら、この件については終わります。

次に（３）「行政視察について」を行います。視察の日程等を立てたいと思います。

暫く休憩します。

休憩 午後 1 時 55 分

再開 午後 2 時 13 分

○鈴木幸彦委員長

委員会を再開します。

では、視察の候補日は、12月19日（火）、20日（水）又は、令和6年1月24日（水）、25日（木）の2日間で行います。（４）その他の今後の委員会と勉強会のスケジュールについては、ただいま確認したとおり、次回委員会を9月8日（金）午後1時30分から、勉強会を9月25日（月）の午前または午後に行い、視察前勉強会を12月13日（水）全協後の政務活動費管理委員会終了後から行いうこととします。視察先と勉強会の内容については、正副委員長にご一任いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

この件について、ご意見等がありますか。

【「なし」との声あり。】

○鈴木幸彦委員長

ないようでしたら、この件については終わります。

その他、何かある方はいますか。

【「なし」との声あり。】

○鈴木幸彦委員長

ないようですので、以上で、公共施設マネジメント調査特別委員会を閉会します。

次回は9月8日（金）の午後1時30分から開催しますのでご予約をお願いします。

お疲れ様でした。

午後 2 時 1 5 分 閉会